

## ネパール大地震2015、救援

### 第2報(メモ)4月30日

#### 1. 29日の行程

朝7時半、借り上げた車に乗りラジュさん宅を出る。日本からの荷物を我が家に置き、Dr.パント宅、日本大使館医務官山形先生、HDCS、秋山さん宅、Kantipole 病院、ADRA ネパール、ラリトプール看護学校、HDCS、Patan Clinic、アナンダバン病院、JICA、そして夕7時、アナンダバン病院診療部長 Dr.ナピットとジャワラケルの喫茶店で話をしパタンの家に戻る。

#### 2. 知り得た情報

##### 1)Dr.パント：広島大学で脳外科を学び、現在カトマンズ市内で脳外科病院を開業、

彼の病院では医師は足りている。もし今日、明日に来てくれるのであれば手術のできる整形外科がほしい。

病院としても被災患者を積極的に受け入れている。

病院やネパール人医師と一緒に仕事をするのであれば、今回日本人医師が診療行為をしても問題ないのではないか。

人より、モノ、お金の方がありがたい。医療器材としてはインプラント、救援物資ではハンディな清浄器、「SAWYER」のようなどんなペットボトルにでも取り付けられて手ごろな値段(アメリカで20ドル)のものが重宝する。

##### 2)秋山さん(日本語聖書集会会員)、ナラヤンさん(秋山さんのご主人、ネパール人牧師)

被災地にある GFA (Gospel For Asia) の教会の多くは倒壊、半倒壊した。被災地は もちろん、カトマンズ市内でも炊き出し、物資配布などの救援活動を始めている。水を運ぶポリタンクがネパール内では入手困難でインドに買いに行っている。

##### 3) ADRA、セブンスディアドベンティストの社会活動部門。日本人職員小川さんは金曜集会の会員

小川さんは被災地の一つダーディンで救援活動をしていて不在、夜帰るとのこと。

##### 4) HDCS

昨夕ドイツから責任者のタパさん、医療担当のカピルが戻り、朝から会議。今までラムジュン病院、チョウジャリ病院ともに被害なしとの報告であったが、よく聞き取りをしてみて分かったことは病棟、職員住宅の亀裂など。

ラムジュン病院では近隣被災地へ出かけ救援活動を開始する。チョウジャリ病院では隣のジャジャコット郡でまだインフルエンザの流行が活発なので、そこへの医療班を出す計画。資金が必要。

#### 5) アナンダバン病院

地域の被災した方々を積極的に受け入れている。

タンセン病院から応援医師2人を含む医療人が手伝いに来ている。

医師など現在、人は足りている。

医療器材、器具などを買うお金が足りない。

#### 6) 日本大使館

徳洲会からの救援医療班はバクタプールの岩村記念病院ではなく、その奥の被災地シンドバルチョークを視察に行く。

### 2. 印象と評価

カトマンズ市内は車も多くなり、スーパーも開きだした。混乱はない。

我が家もタンクが直り、トイレ、洗濯も問題なくなった。

カトマンズの外の被災地の情報が入りだしてきた。テレビは生で一日中その様子を流している。亡くなった方も5千人を超え、被災地の村々の家屋は5割、7割と倒壊しているところもある。

カトマンズ市内、近郊の病院は医師を含め医療人は足りているようだ。遠方はアクセスの問題、大型機材の搬入、ベースキャンプの設営難などの問題あり。

現在救援活動を開始している、またしようとしている、そして今まで関係の深い団体に資金援助で支援する方向で考える。その団体は援助金のマネージメントはきちんとできる。

### 3. 今後

JICA,ADRA を含め、もう少し情報を集める。

その上で救援に来てくれる医師たちの活動の場を検討する。